



＜学長・学務局長協議会報告＞

学長・学務局長に現在・今後の学園・大学のあり様を問う！

忌憚のない意見交換会に



組合執行部6名が参加した協議会の様子（2017/7/31 学長室）

新執行部は透明化・可視化を目指して

七月三十一日（月）一七時より、板橋校舎の学長室において、学長および学務局長、教職員組合執行部との間で協議会を実施しました。

協議会の目的は、大学執行部の長で、教学責任者でもある両人の先生方に対し、教職員および学園の抱えている諸問題について直接見解を聞き、同時に組合の姿勢を伝えて、今後のあるべき大学の姿を探ることにありました。

本来は一時間の予定でしたが、議論が盛り上がり、三十分程延び、広く意見交換をすることができました。今回は広くその時の模様を知らせるべく、号外として皆様にご報告します。門脇学長、高橋学務局長にはご多用中にもかかわらず、お時間を割いて戴きましたことを厚くお礼申し上げます。

（文責 大杉由香）

門脇学長としては、役員報酬や手当のカットは当然と考える一方、現在のようないろいろな年齢層の若手も上がると、給与体系でなく、できるだけのフラットな形での給与体系が望ましいと思っており、今でも対峙する気持には変わりはないとのことでした。また現在の大東ヴィジョンが中身のないうスローガンになっていること、創立一〇〇周年より先を見据えて、二〇三三ヴィジョンを打ち出すためにも今のヴィジョンを再検討する必要があるとの見解を示しました。

さらに財政的な困難を乗り越えるべく、今年度限りでの法科大学院の閉鎖（一億四千万円

門脇学長としては、役員報酬や手当のカットは当然と考える一方、現在のようないろいろな年齢層の若手も上がると、給与体系でなく、できるだけのフラットな形での給与体系が望ましいと思っており、今でも対峙する気持には変わりはないとのことでした。また現在の大東ヴィジョンが中身のないうスローガンになっていること、創立一〇〇周年より先を見据えて、二〇三三ヴィジョンを打ち出すためにも今のヴィジョンを再検討する必要があるとの見解を示しました。

さらに財政的な困難を乗り越えるべく、今年度限りでの法科大学院の閉鎖（一億四千万円

門脇学長としては、役員報酬や手当のカットは当然と考える一方、現在のようないろいろな年齢層の若手も上がると、給与体系でなく、できるだけのフラットな形での給与体系が望ましいと思っており、今でも対峙する気持には変わりはないとのことでした。また現在の大東ヴィジョンが中身のないうスローガンになっていること、創立一〇〇周年より先を見据えて、二〇三三ヴィジョンを打ち出すためにも今のヴィジョンを再検討する必要があるとの見解を示しました。

さらに財政的な困難を乗り越えるべく、今年度限りでの法科大学院の閉鎖（一億四千万円



困難多き現況を乗り越え、大東は一致団結して、教育・学術界の黒帯を目指します！